



令和7年度 学校だより

# つなぐ

翠輝学園 つくば市立  
みどりの南小学校  
第48号  
発行日 R8. 1. 28

## 宇宙のふしきを学ぶ 天体の大きさは? 6年理科 県オンライン授業



1月22日(木)5校時、6年生がオンライン授業「考える理科スタディチャンネル」を行いました。この授業は茨城県教育委員会主催「いばらきサイエンスキッズ育成事業」で、児童に科学のおもしろさを伝え、学力向上を図るもので、今回はその第4回「宇宙のふしき。惑星の大きさって?」でした。講師は「県立つくばサイエンス高校」(つくば市谷田部)の大槻先生。太陽や地球など太陽系の天体について、クイズや高校生による実験、国立天文台の布施先生の取材動画も交え、楽しく素晴らしい授業でした。

「太陽と月はなぜ同じ大きさに見えるのか」の実験では、太陽に見立てた運動会の「赤い大玉」が登場。太陽は月よりも400倍大きいですが、太陽と月は同じ大きさになるという奇跡(だから日食が起こる)を高校生が実験で示してくれて実感することができました(実はこの大玉、本校のもので、授業中、みどりの南小学校へのSpecial Thanksのクレジットも)。今回は理科が専門の6年3組の黒田 祥太 先生がこの学習に申し込んでくれました。今後もこのような学習の機会をつくっていきたいと思います。



## 『科学っておもしろい!』

特別な体験で理科好きに

12月21日(日)、第5回「おもしろサイエンス実験教室」がつくばサイエンス高校で行われ、本校児童が参加し、高校の先生から科学を学びました。この日は「ロボットコース」と「化学生物コース」。国際宇宙ステーションで使われるロボットアームの原理を利用した工作をしたり、ニンジンを細胞から育てる実験や、ホウレン草とニンジンのペーパークロマトグラフィーの実験をしたりしました。白衣を着て、専門家から学ぶ授業はとても魅力的で、子供たちは「科学者」のようでした。つくばサイエンス高校は茨城県が力を入れており、電子顕微鏡や液体・ガス・イオンクロマト等の高度な分析機器や遺伝子組み換えの装置が揃っており、全国でも珍しい大学レベルの教育環境に驚きました。



先生は元宇宙開発エンジニア 白衣を着た本校児童

### お世話になった「茨城県立つくばサイエンス高等学校」とは?

令和5年度、茨城県の科学教育の拠点校として開校した普通科・科学技術科がある、理系大学進学を目指す高校。校舎は「つくば工科高校」を活用。名誉校長はノーベル物理学賞の小林 誠 先生。令和7年度よりALT(外国語指導助手)を4名配置し、英語指導も充実。

〈研究指定〉文科省 DX ハイスクール ・ 医学部進学支援校 ・ サイエンスリーダーズ育成事業(県教委主催) 他  
〈進学実績〉筑波大学、宇都宮大、山形大学、上智大、日本大、東洋大、東京電機大 ほか多数(詳細はHP参照)

この他、10月11日(土)の第3回「紙飛行機を飛ばそう」は特別編として、みどりの南小学校の多目的室2を会場に、県内各地から本校児童を含む小中学生が参加しました。日本紙飛行機協会最高顧問の荒木 敏彦 先生のご指導の下、本格的な飛行機の製作を行いました。



飛行機の技術を知る

チームでタワーをつくる

また、11月22日(土)の第4回は「情報コース」と「建築コース」が実施されました。特に建築コースでは、建築が専門のサイエンス高校の先生の指導を受けながら、チームで「ペーパータワーコンテスト」に楽しくチャレンジしました。